

小の虫を殺し大の虫を生かす 「非情の安全管理」が必要である

愛媛県大洲市 愛媛舗道株式会社社長
小林 哲之

長年にわたった 協議会の会長職

私が愛媛県大洲市の安全運転管理者協議会会長をつとめたのは1981年(昭和56年)から2005年(平成17年)までの25年間に及び、愛媛県安全運転管理者連絡協議会の会長をお引き受けしていたのは2001年から2005年までの4年間であった。県連絡協議会では会長職の前に副会長として12年間を過ごしていたので、県の連絡協議会と私との縁も結構長く続いたのであった。

大洲の協議会の加盟事業所数は1770余であり、愛媛県の加盟事業所数は4500を数えている。会員諸事業所をはじめ、関係各機関の皆様の大なるご協力によって微力ながら思いきり働くことが

できたことを誇りに思っている。会員各位の寛容な応援とご指導に助けられ「すり鉢の底」といわれる大洲の盆地から首をのびしながら、自分なりに元気で情熱を傾け活動が続けられたことはまことに感謝に堪えぬことである。そのご恩返しのために、後に続く安全活動の推進者に向かって私の体験と思いを語り継いでおきたいと考えている。

たまたま、私が会長任期中に運転管理者の参考資料の一つとして推奨してやまなかつた「月刊運転管理」誌から思いがけず連載の頁を割いていただく話があったとき、自分の経験がすでに過去のものにすぎぬと考えた私はいったんお断りしたのであった。しかし、過去の経験こそ学ぶべきものが埋もれていると説かれ、少なくとも複数回の連載を決意させ

ていただいた。そうすると、NHKの朝の連続テレビ小説「おはなはん」の舞台にもなった故郷大洲のことなども含め、話題がときに安全運転管理のテーマから脱線することになるかもしれない。そのような私事にわたる部分も、なにとぞご勘弁のうえお付き合いくださることを今からお願ひしておきたい。

運転と人生行路 幸と不幸の連鎖

少々、過激な言い方になるかもしれないが、私は車の運転を人生に例えて次のような語録にしたことがあった。「運転は人生行路と瓜二つ、幸と不幸の運を転ずる(安全運転は幸せな一生につながる、不安全な運転は不幸な一生につながる)」という、運転がもたらす幸と不幸

の連鎖の違いを説くものであった。私としては人の日々の暮らしにおける安全運転の良循環と、不安全な運転の悪循環の対比を強調したかったのである。

警察官の目を盗んで違反を繰り返すような悪い運転をしていると、いつかはそれが顕在化してきて不幸な人生を送ることになる。目的地に行くのに違反をしなから行くような人は犯罪者と同じでいつ

しか生活そのものが悪循環を繰り返すようになる。そうすると、きつとどこかで事故につながるが、勤め先では減俸、懲戒、臍首ということになり、その結果として経済的困窮、家庭崩壊というように悪循環のわなにはまって人生の歯車が大きく狂うことにもなる。

片や安全運転はその反対である。日ごろから正しい活動を心がけ他人に迷惑をかけることのない運転をしている人は、事故から最も遠い存在である。何事も天地に恥じるところがないから顔つきも明るく心も晴れやかである。それが健康にも反映して病氣もせず周囲をなごやかにする。職場でも信頼され、いつしか地位も向上して収入も上がる。家庭も円満で……という良循環が繰り返されるといわけである。そういう連鎖を考えると、まことに人生行路と運転は同じだと思わざるを得ない。語呂合わせではないが、運転はまさに幸と不幸の運を転ずるものである。安全運転は幸せな一生を導き保証するものだときえ、いえるのではないだろうか。

無事故社員は会社の力 安全管理者は鬼になれ

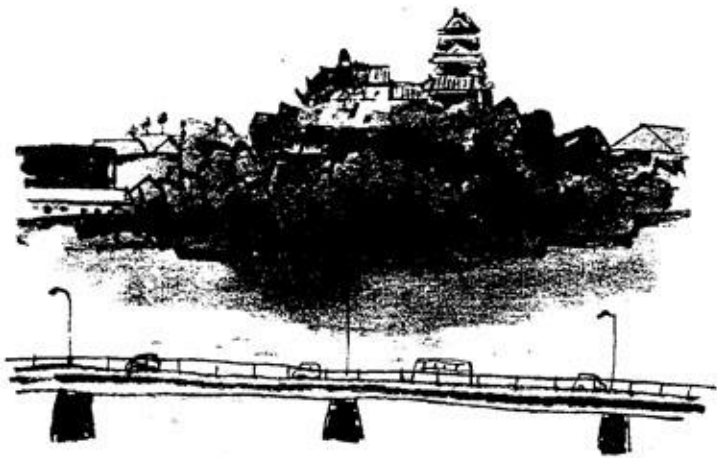
そこで必要になるのは、安全なドライバーと不安全なドライバーを見極める安

全運転管理者の役割である。私は事業所において長年勤続し、その間、無事故を通した社員には大きな報奨を与えても与えすぎることはないと思っており、実際自分の会社ではそういう対象者に報いる思いきつた制度を規定してきた。事故を起こすことのない社員をどれだけ多く持つかが会社の力であるときえ思ふ。

組織のなかでは、運転は自分だけのことではなく全体に大きな責任を持たなければならぬことを強調しておきたい。その人間を業務につけておいたらまた事故を起こす確率が非常に高いとわかっていながらそのままにしている事業所がみられるが、その衰退は時間の問題だといふことができる。企業を維持発展させるためには、運転不適格者は運転業務につかせない。どんなに性格がよくても、勉強ができて、注意力がない人は事故を起こす。管理者は個人的によく観察して判定しなければいけない。義理や人情とは関係なく会社の維持と仲間の生活を守るためには心を鬼にすることが要求される。小の虫を殺して大の虫を生かすという大局観をもって決定を下さねばならぬということだ。安全運転管理者はオーナー的な感覚にならないとやれないかもしれないが、それぐらいの覚悟で当たらなければならぬ職務なのである。(続く)



小林哲之(こばやし さとし)さんのプロフィール
1942年(昭和17年)愛媛県大洲市生まれ。愛媛舗道株式会社社長。大洲高校から麻布獣医科大学(現・麻布大学)に進み65年卒業と同時に父君が創業し経営する愛媛舗道に入社、83年社長となり今日に至る。早くから交通安全の重要性に目を向け81年大洲安全運転管理者協議会会長に就任(在任25年)、89年愛媛県安全運転管理者連絡協議会副会長(同12年)、2001年より会長(同5年)をつとめ、愛媛県高遠道路交通安全協会副会長(同5年)なども歴任した。事業所の運転管理を中心に地域社会における安全活動の推進力となつて強いリーダーシップを発揮し、その功勞により2005年春の第45回交通安全全国国民運動中央大会においては全国優良安全運転管理者協議会の代表として表彰状を受けた。



絵・市川興一